

これまでの専門委員会における主な意見等

第 1 回専門委員会（平成 28 年 8 月 10 日（水）開催）

- 互選により高野委員長を選出、高野委員長から、佐藤誠一委員を委員長代理に指名。
- アンケート調査票（案）について協議、修正後、9月に調査を実施。

第 2 回専門委員会（平成 28 年 10 月 31 日（月）開催）

○地域公共交通網形成計画策定に係る追加アンケート調査結果等について

委員の発言概要

- ・路線再編した場合に行きたいところで、「新さっぽろ」と答えている人が多いが、具体的な行き先を分析できると良い。
- ・バスの利用実態と需要は、調査により把握することができ、供給については、現在のバス路線がわかっている。この需要と供給のギャップが大きいのは、どこからどこに行く場合なのか、どのような路線を引けば、そのギャップを吸収できるかを分析すると、新たに検討すべきバス路線や、その採算性が見えてくる。これは計画を作るうえで重要。
- ・多額の赤字を抱えているバス路線を自分たちの生活の足として守るため、市民はもっと関心を持たなければならない。意識啓発するためには、利用促進策を計画に盛り込む必要がある。
- ・JR北海道に対し、市内鉄道駅の時間帯ごとの利用者数データがあれば提供を依頼してはどうか。鉄道利用者の多い時間帯に厚みを持たせるための分析が有効。

第3回専門委員会（平成28年11月22日（火）開催）

○平成26年度調査結果及び平成28年度調査結果に基づく江別市民の日常の移動実態に関するとりまとめ～補足資料～について

委員の発言概要

- ・ 冬季の移動手段の変更を見ると、自動車が減っているように見えるが、この結果は、あくまで合計。中には、自転車から自動車へのシフト、バスや徒歩へのシフトなど、色々なパターンがある。この見方だと、自動車が減っていることしかわからず、何がどう移っているかがわからない。一般的に、自転車は、冬季には徒歩、バス、自動車のどれかのにシフトするので、自転車がゼロになり、自動車は増えるはず。合計してしまうと中身がよく見えなくなってしまう。パターン別の分析も必要。
- ・ バス路線を再編する上で「わかりやすい」というのは重要なキーワード。路線網がシンプルであればわかりやすいが、利便性を求めて色々回るとわかりづらくなる。この相反する要望に折り合いをつけるのは難しい。
- ・ 今後、免許を返納する高齢者が増えたときに、その人たちが、うまくバスを利用することができるようになってくると良い。

○江別市内における路線バス利用実態停留所別利用者数について

委員の発言概要

- ・ O Dデータでわかる実際の移動をバス路線に当てはめてみて、路線ごとの密度を検討すると良い。それにより、現状のバス路線で足りない部分や、重複により輸送密度が低くなっている部分などがわかる。
- ・ 計画を策定するにあたり、バス利用の増減等について、将来推計を議論する必要があるのではないか。平成18年当時は、バスは減るという予測だったが、最近は横ばい。路線や地域によっては増えているところも出てきている。免許返納なども考えると、一概に減るとは言えない。
- ・ わかりやすい路線や使いやすい時刻表、あるいは、料金体系などの工夫で利用を喚起するような計画が必要。
- ・ 今回は10月のデータを分析しているが、積雪の有無により、利用状況は大きく変わるので、冬季のデータも分析してはいかがか。

- ・通勤通学の時間帯以外は小さいバスを走らせて経費を削減できないか。
- ・バスのサイズについて、小型のものと大型のものをばらばらに購入した場合、汎用性の関係から、いざというときに使えない。大は小を兼ねるので、大型の車両を買っておいた方が良い。小型の車両だと、経費は多少抑えられるかもしれないが、それに合わせると汎用性がなくなるので、事業者としては悩ましいところだと思う。
- ・現在のバス路線は、事業者が研究を重ねてきた結果なので、大規模に変えるのは難しいかもしれない。全く変わったものになるとは思えない。